

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2090600012		
法人名	社会福祉法人 諏訪福祉会		
事業所名	かりんの里複合福祉施設 認知症対応型高齢者グループホーム かりん		
所在地	長野県諏訪市高島1丁目1番11号		
自己評価作成日	平成23年1月27日	評価結果市町村受理日	平成23年5月27日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2090600012&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部		
所在地	長野県松本市巾上13-6		
訪問調査日	平成23年3月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は、上諏訪駅に近い立地で、面会の方が施設に訪し易い環境である。また、諏訪湖や高島城といった諏訪地域に馴染みのある場所がすぐ近くにある。本年は7年に1度の御柱祭ということで、地区の子ども会や近隣の方々を迎え、盛大なお祭を行うことも出来た。住み慣れた環境を生活の中で感じられる複合施設内に事業所があるため、併設しているユニット型地域密着型特養および認知症対応型通所介護事業所との交流も盛んである。合同のイベント参加はもちろんのこと、地域の高校生や福祉大学の方による演奏会や、ボランティア活動による腹話術やフラダンスなど施設外からの来訪もあり、地域とのかかわりも多い。併設している事業所の専門職には、管理栄養士や歯科衛生士がおり、指導を受け栄養管理や口腔ケアに力を入れ取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームかりんは、2009年6月、ディサービスきずな、ユニット型地域密着型特養と共に複合福祉施設として3階に設置された。同法人の経営する介護老人保健施設に隣接し、行事や避難訓練、管理栄養士による献立作りや歯科衛生士による歯科指導等、職員間の協力体制が構築されている。介護が必要になっても、地域の中で家族や親しい人と共にその人らしく生活できるよう、理念に掲げられている「心のふれあいと笑顔を大切に介護」を目指して、研修や勉強会を重ねながらケアの質の向上に取り組まれている。ホールに直面したキッチンでは、利用者が職員と共に調理や盛り付けを行なうなど、利用者の力量に応じた役割作りが見受けられ、利用者のペースに合わせた活気ある食事風景であった。また、利用者の希望や有する力を把握し、遠出の外出や地域の方を招いての行事を計画するなど、利用者や家族の喜びが楽しみにつながり張り合いのある日々が過ごせるような支援がされていた。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名(かりん)		項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない		63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない		64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
ユニット名(あやめ)				
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「心のふれあいと笑顔を大切に」という施設理念を、各ユニット・正面玄関等へ掲示するとともに施設案内用のパンフレットにも盛り込み、施設見学や施設実習の際には必ず説明させて頂いている。また、新入社員にはオリエンテーションの中で、施設理念に関する講義やレポートを実施している。	地域密着型サービスとしての意義をふまえわかりやすい言葉で表現された理念が掲示され、職員にとってサービスの道しるべとなっている。研修やオリエンテーションなどで理念について話し合い、理念を実践につなげられるよう取り組まれていた。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年は御柱年という事も有り、施設の「御柱」にご近所や地域の子供連に参加して頂き祭りを盛り上げて頂いた。又、一周年記念祭や暮れの餅つき大会にも参加して頂いている。自治会運営の避難訓練にも参加させて頂いている。今年度10月に行われた施設の防災訓練にも地域住民の方に参加して頂いている。	地区の自治会へ加入し地域行事へ参加したり、施設の行事に地域の方をお誘いしたり、市役所の新人研修や大学実習生の受け入れを行うなど、事業所が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、積極的に働きかけが行なわれている様子をうかがった。	「暮らし」が事業所の中だけで完結しないよう、日常的な地域との相互関係が大切である。複合施設の3階に設置されているため、地域住民との日常的なふれあいの機会が持ちにくい。今後は、近隣の人や子どもたちが立ち寄りやすくなるよう働きかけを期待する。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	福祉関係の実習の受け入れや、諏訪市役所の職員研修、民生委員や各自治区の見学等を積極的に受け入れている。また、施設長自らが、実習担当として福祉大学校の実習指導者や講師を務め、福祉従事者の育成に取り組んでいる。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催している。会議では、ご利用者状況や職員構成、職員研修報告や事故・苦情・行事等の報告をさせて頂き、委員の皆さまより頂いた意見を介護サービスの運営に活かしている。	運営推進会議は、入居者家族、広域連合、市役所職員、地区福祉代表、民生委員、ボランティアの会等多彩なメンバーが参加のもと開催されている。会議で出された意見や情報は、その後のケアに反映するなど、サービスの質の向上に活かされている旨をうかがった。	運営推進会議は、地域や行政の理解と支援を得るための貴重な機会である。検討事項の話し合いや現状報告のほか、避難訓練や行事にあわせて開催するなど、利用者の状況やケアの実状についての理解を得るための取り組みを期待する。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議はもちろん、事業者連絡会(行政主催)への参加や、機会ある毎に市の担当者や広域連合の職員と連携を図っている。また、市役所の新人研修も毎年受け入れをしている。	市の職員は運営推進会議に出席し、事業所は市職員の新人研修の新人研修の場としても提供されている。	

外部評価結果(認知症対応高齢者グループホームかりん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営規定や重要事項説明書に明文化している。また、入社時のオリエンテーションや施設内研修で「身体拘束廃止」の講座を取り入れ勉強会を実施している。拘束廃止委員会も設置し法人全体として取り組んでいる。	職員は勉強会や研修により、身体拘束による弊害を理解し、拘束のないケアの実践をされていた。拘束廃止委員会を設置し、法人全体として拘束廃止へ積極的な取り組みがうかがえる。利用者が外出しそうな様子が見られたときは、止めるのではなく一緒にいていくなど、安全面に配慮し自由な暮らしを支えるよう支援されていた。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に高齢者虐待防止関連の情報を収集し、他施設で起きてしまった虐待例を職員掲示板に掲示し職員に周知している。また、日々の業務の中でも虐待が見過ごされることのない様、スタッフへ周知し、虐待予防に努めている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等には積極的に参加し、身近な問題としてスタッフが認識できる様、伝達学習を行っている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その都度十分な時間を確保し、キーパーソンになれる方はもとより、出来る限り介護に参加される方に対して説明が行えるよう努めている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設玄関窓口に苦情・要望受付箱を設置し、苦状等があった場合には、ユニットおよび幹部会議で話し合い、改善策や回答を掲示している。また、1年に1回ご利用者満足度調査アンケートを実施し、アンケートより頂いた内容についての回答も掲示している。苦情・要望受付簿の内容やアンケート結果については、運営推進会議においても報告している。	運営推進会議や面会時など、意見や要望を表せる機会を設けたり、直接言いにくい方のために苦情・要望受付箱を設置されている。また、利用者満足度調査を実施し、サービスの質の向上に活かせるよう検討されている。ホームでの利用者の暮らしぶりを家族に知っていただくために、毎月の請求明細書を送付する際には、行事などの写真入りのホーム新聞を同封するなどの取り組みが確認できた。	現在家族会の結成には至っていない。家族は、意見や要望、不満を言い出し難いことから、職員から積極的に意見を聞いたたり、職員が席をはずし家族同士で話し合える場を提供するなど、今後更に、何でも言ってもらえる場面作りに取り組まれることを望む。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会や各種委員会には出来るだけ施設長が参加し、職員の意見や要望を聞き施設運営に活用している。また必要であれば個人面談も行い職員の率直な思いも聴いている。	年に1回の施設長の面談のほか、管理者による面談もある。管理者は、日常的な関わりの中でも職員の声に耳を傾け、運営に活かしている様子がうかがえた。	

外部評価結果(認知症対応高齢者グループホームかりん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月に1回、幹部会議を開き運営実績の報告や業績についてねぎらいの言葉を掛けている。また、本年度から人事考課も取り入れ評価している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体で実施している施設内研修や、複合施設勉強会を企画、立案し職員の教育に力を入れている。また、外部研修にも積極的に参加している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人での交流は現状行っているが、他施設で運営されている事業所との交流は少ない。代表者間での交流は度々有る為、今後は管理者を含めた職員交流を実施していきたい。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来る限り1対1で対応し、相手の思いや希望を聞き、更にコミュニケーションの構築に努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	来居された時の対応や接待時の対応には、特に注意し十分時間を取り、ご家族やご本人の意向に沿う様話を聞いている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の意向に沿う様他のサービス利用も希望された時は対応している。		

外部評価結果(認知症対応高齢者グループホームかりん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活できる環境作りに努め、一人ひとりの気持ちを尊重した関わり作りに努めている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来居の際、日頃の生活の様子を細かく伝え、ご本人の状況に合わせてご家族の思いや希望に添える様努めている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	在宅で生活していた近隣の方の訪問にはスタッフが快く迎え、ゆっくり過ごせる場所の提供や共に過ごせる時間の確保に努めている。	職員は、利用者がこれまで培ってきた人間関係を把握し、地元のご近所だった方が訪問されたり、手紙や年賀状、電話の支援をするなど、つながりを継続できるように努められている旨をうかがった。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様がスムーズに関われる様要所所でスタッフが介入し、潤滑油的な存在でいられる様配慮している。また、入居者間での居室の行き来もトラブルがない様見守り、ご本人の自由を束縛しない様努めている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設や医療機関に行かれた後も、ご家族からの問い合わせに対し相談を受けている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様一人ひとりに対し担当制を取っており、日々の生活の中からご本人の思いを聞き出せる様努めている。また、ご本人の意向に沿えるよう、スタッフがカンファレンスを通し同じ認識となる様努めている。	利用者の把握をきめ細かくできるように、担当制をとっている。職員は、家族から情報を得るとともに、利用者が言葉にしづらい思いは、日々の行動や表情から汲み取るよう、一人ひとりその時々意向や思いの把握に努めながら支援されていた。	

外部評価結果(認知症対応高齢者グループホームかりん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	在宅での生活経過についての把握は個々に行えているが、生活環境が変わってもその方らしく生活出来る様、出来る事をとりいれながら生活していただける様努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	大まかな1日の生活メニューを組み立て、時には行事なども盛り込み、それぞれの身体状況に合わせ無理なくご本人のペースに合わせられる様計画作りに努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様の変化に合わせて担当者を中心に、カンファレンスを開き方針の確認をしている。	カンファレンスを行い、担当者をはじめ職員全員で意見を出し合い、計画作成担当者が立案している。定期的または状況に応じて、モニタリングと評価を行ない見直しを行なうことで、現状に即した計画になるよう努められていた。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援経過記録を通し、その日の状況をスタッフ一人ひとりが把握し、更に申し送りで重要なポイントを伝えている。状態の変化に伴い、その都度計画の見直しを迅速に行う様心がけている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	基本的な事柄に終始せず、スタッフが対応出来る事は(例えば通院介助や外からのサービス)柔軟に対応している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設周辺のスーパーにスタッフと共に買い物に出向き、自由に買い物を楽しんだり催しものを楽しんだりしている。		

外部評価結果(認知症対応高齢者グループホームかりん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居にあたり主治医が変わる際、ご本人やご家族の意向を確認し、事前に受診して頂いたり、主治医への情報提供を行いながら、継続した医療を受けられるような配慮をしている。	利用者の希望されるかかりつけ医に受診できるように支援されている。看護職員の配置により、日頃の健康管理や医療面での相談が行なわれ、月に一度は往診が受けられるなどの健康管理が行なわれていた。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	病状の変化に伴い細かい情報提供がされている。また、特別な変化が見られなくても、日々の状況がつかめる様連携が図れている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	急な入院の際、出来る限り早い時点で入院先の医療相談室と病状や経過、今後の予後などについての情報を頂き、退院時は迅速に帰居される準備を行っている。その際ご家族も含め話をしている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期の在り方についてご家族の希望を確認し、ご本人やご家族の意向に沿えるよう現在のグループホームとして、出来る限りの支援に心がけている。	医療連携体制が整っていないため、重度化した場合は医療機関や他施設への住み替えをお願いし、家族の理解を得ている。転居に至るまでは、最大限の支援をしていく旨をうかがった。	重度化や終末期の対応のあり方は、利用者と家族の不安のひとつである。利用者と家族のニーズを汲み取り、事業所で対応しうる最大限の支援方法をチームで話し合うことが望まれる。また看取りが行なわれない場合でも、ターミナルケアの研修や、他の事業所の取り組みを参考にするなど、体制を整えていかれることを望む。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入社時のオリエンテーションや施設内研修で急変や事故発生時に備え、研修を受け対応出来る様学習している。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	入社時のオリエンテーションや、年2回の避難訓練と水防訓練を地域の方の協力を得て行っている。	年2回、夜間を想定しての避難訓練や、諏訪湖近くに設置されていることによる防水訓練が、地域住民の協力を得て行われている。避難の際は、複合施設内での応援体制により行なわれる旨をうかがった。	ホームは複合施設の3階にあり、利用者にとって非常階段から避難は困難が多いと思われる。また、入居者の高齢化に伴い身体機能の低下や重度化が予想され、職員だけの誘導には限界があると思われる。いざというときに近隣住民の協力を得られるよう、運営推進会議での呼びかけと協力体制の更なる構築を望む。

外部評価結果(認知症対応高齢者グループホームかりん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	敬語での対応を意識し、声掛け時もプライバシーが守れるような配慮を意識している。	プライバシーの保護と人格の尊重は、対人援助の基本原則であり、研修や勉強会を通して職員は認識してケアをされている。職員と利用者のやりとりから、職員の利用者に対する敬意や人格を尊重する姿勢が感じられた。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いが聞ける様選択肢の提示を行っている。出来る限り1対1で本人の思いをゆっくり聞ける時間をとる様意識している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、入浴、レクを含め、ご本人の意向を尊重し対応している。(入浴は、曜日関係なく連日対応)時間にはしばられない。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣の際本人の希望を尊重し、選んで頂いたり、化粧をしたり身だしなみについて意識している。ご本人の希望で楽しく行える様配慮している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	複合の特性でメニューは決まっているが、それぞれの嗜好を聞きながらメニューに入れてもらっている。外食も行っている。イベント食などで感想を聞き、次のメニュー作りに活かしている。	献立は、複合施設全体で決められているが、利用者の希望が取り入れられるような仕組みもある。ホームのフロアが見渡せる台所で、利用者と一緒に調理、盛り付け、片付けなどの作業が生き生きと行なわれていた。職員は利用者と同じテーブルを囲み、食欲も会話も進み楽しい食事風景であった。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の摂取量のチェックや定期的に体重のチェックを行いBMIを計算している。体重の増減に応じ、摂取量も変えている。		

外部評価結果(認知症対応高齢者グループホームかりん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けや見守り介助を行い、必ず口腔ケアを行っている。炎症などが有る場合の処置も含め、行えている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間でトイレ誘導し出来る限りオムツ内への排泄がなくなる様意識している。排便パターンも同様に対応している。オムツ内への排尿が減ればパットやオムツの種類を変え、外せる様な努力をしている。	職員はトイレでの排泄やオムツをしないで済む暮らしの大切さを理解し、排泄パターンにそったトイレ誘導や声掛けをされていた。パット等を交換する際は、本人の羞恥心に配慮しながら支援されている様子をうかがった。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬に頼らず食べ物や適度な運動を心がける様にしている。ご本人が食べやすい様刻んだり形態も工夫している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は連日行っている。特に時間を決めずご本人の希望を出来る限り優先している。	利用者の希望を大切に、いつでも入浴できる体制をとっている。リフトも使える個室は、肩まで浸かれる浴槽であり、職員とゆっくり会話をしながらの入浴を楽しまれている。入浴を嫌がる利用者は介護計画に挙げ、声掛けなど誘導を工夫しながら支援されている旨をうかがった。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の生活リズムに合わせ、ゆっくり休める様就寝や起床の時間を決めていない。眠れない方には、スタッフが付き添い起きていたり、掛け物の調整をしたり工夫をしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ファイルにまとめスタッフの目の届く場所に置き、時間のあるとき眼を通せるようにしてある。食前薬・点眼・食後薬を区別し間違えないよう工夫している。症状や日々の変化について記録に残している。		

外部評価結果(認知症対応高齢者グループホームかりん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の出来る事の役割分担が自然に出来ている。ご本人の行いたい事や生活歴についても個々の対応の中から見出せた場合はそれを活かす様にしている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望に添える様季節に応じても外出できるよう心がけている。近くの公園などにも出向くよう努めており、気分転換が図れる様努めている。ご家族の支援もいただきながら自由に外出している。	天気の良い日には、利用者の希望とペースにあわせてホーム周辺や諏訪湖、高島城などへ散歩できるよう努められている。家族の協力も得ながらイチゴ狩りや花見などの行事やミニドライブが行なわれ、利用者の楽しみにつながっていた。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物はスタッフが付き添い、支払いは出来る限りご本人が行える様見守っている。出来ない場合でも、ご本人の気持ちを尊重し出来る限りの支援に努めている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が電話をかけたい時には支援を行っている。手紙のやり取りも頂いたら返事が書ける様支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その季節に応じた装飾をしている。温度調節や遮光など心地よい環境が作れる様配慮している。	複合施設の3階に設置されているため、採光や眺めは良く、四季の移ろいを感じることができる。ホールの壁には、利用者が作成された季節感ある貼り絵や塗り絵などの作品が飾られ、観葉植物が置かれていた。ゆったりと思いいにくつるいだり、塗り絵に熱中されている利用者の様子がうかがえた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースで一人で過ごせる場所は少ないが、居室でゆっくり過ごして頂ける様支援している。また、気の合った入居者様同士がそれぞれのお部屋に行き来する事も自由に出来ている。		

外部評価結果(認知症対応高齢者グループホームかりん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は花や写真を置いたり、ご本人やご家族の意向に沿うよう努めている。自宅で使っていたものを持参して頂き、ご本人が居心地良く過ごせる様な配慮をしている。	ホーム備え付けのベッド、タンス、テーブルが設置された居室には、利用者が自宅で使用されていた時計、写真、装飾品などが置かれ、その人らしく生活できるように支援されていた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	焦点情報を利用し、出来る事・出来ない事を分析し、日常の生活の中に盛り込み、生きがいややり甲斐につながる様支援している。その中で安全面にも配慮し、フロア内の整理整頓に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「心のふれあいと笑顔を大切に」という施設理念を各ユニット・正面玄関等へ掲示するとともに、施設案内用のパンフレットにも盛り込み、施設見学や施設実習の際には必ず説明させて頂いている。また、新入社員にはオリエンテーションの中で施設理念に関する講義やレポートを実施している。	地域密着型サービスとしての意義をふまえわかりやすい言葉で表現された理念が掲示され、職員にとってサービスの道しるべとなっている。研修やオリエンテーションなどで理念について話し合い、理念を実践につなげられるよう取り組まれていた。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年は御柱年ということもあり、施設の「御柱」にご近所や地域の子供連に参加して頂き祭りを盛り上げて頂いた。また、1周年記念祭や暮れの餅つき大会にも参加して頂いている。自治会運営の避難訓練にも参加させて頂いている。今年度10月に行われた施設の防災訓練にも地域住民の方に参加して頂いている。	地区の自治会へ加入し地域行事へ参加したり、施設の行事に地域の方をお誘いしたり、市役所の新人研修や大学実習生の受け入れを行うなど、事業所が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、積極的に働きかけが行なわれている様子をうかがった。	「暮らし」が事業所の中だけで完結しないよう、日常的な地域との相互関係が大切である。複合施設の3階に設置されているため、地域住民との日常的なふれあいの機会が持ちにくい。今後は、近隣の人や子どもたちが立ち寄りやすくなるよう働きかけを期待する。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	福祉関係の実習の受け入れや、諏訪市役所の職員研修、民生委員や各自治区の見学等を積極的に受け入れている。また、施設長自らが、実習担当として福祉大学校の実習指導者や講師を務め、福祉従事者の育成に取り組んでいる。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催している。会議では、ご利用者状況や職員構成、職員研修報告や事故・苦情・行事等の報告をさせて頂き、委員の皆さまより頂いた意見を介護サービスの運営に活かしている。	運営推進会議は、入居者家族、広域連合、市役所職員、地区福祉代表、民生委員、ボランティアの会等多彩なメンバーが参加のもと開催されている。会議で出された意見や情報は、その後のケアに反映するなど、サービスの質の向上に活かされている旨をうかがった。	運営推進会議は、地域や行政の理解と支援を得るための貴重な機会である。検討事項の話し合いや現状報告のほか、避難訓練や行事にあわせて開催するなど、利用者の状況やケアの実状についての理解を得るための取り組みを期待する。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議はもちろん、事業者連絡会(行政主催)への参加や、機会ある毎に市の担当者や広域連合の職員と連携を図っている。また、市役所の新人研修も毎年受け入れをしている。	市の職員は運営推進会議に出席し、事業所は市職員の新人研修の新人研修の場としても提供されている。	

外部評価結果(認知症対応高齢者グループホームかりん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営規定や重要事項説明書に明文化している。また、入社時のオリエンテーションや施設内研修で「身体拘束廃止」の講座を取り入れ勉強会を実施している。拘束廃止委員会も設置し法人全体として取り組んでいる。	職員は勉強会や研修により、身体拘束による弊害を理解し、拘束のないケアの実践をされていた。拘束廃止委員会を設置し、法人全体として拘束廃止へ積極的な取り組みがうかがえる。利用者が外出しそうな様子が見られたときは、止めるのではなく一緒についていくなど、安全面に配慮し自由な暮らしを支えるよう支援されていた。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に高齢者虐待防止関連の情報を収集し、他施設で起きてしまった虐待例を職員掲示板に掲示し職員に周知している。また、日々の業務の中でも虐待が見過ごされることのない様、スタッフへ周知し、虐待予防に努めている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等には積極的に参加し、身近な問題としてスタッフが認識できる様、伝達学習を行っている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その都度十分な時間を確保し、キーパーソンになれる方はもとより、出来る限り介護に参加される方に対して説明が行えるよう努めている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設玄関窓口に苦情・要望受付箱を設置し、苦状等があった場合にはユニットおよび幹部会議で話し合い、改善策や回答を掲示している。また、1年に1回ご利用者満足度調査アンケートを実施し、アンケートより頂いた内容についての回答も掲示している。苦情・要望受付簿の内容やアンケート結果については、運営推進会議においても報告している。	運営推進会議や面会時など、意見や要望を表せる機会を設けたり、直接言いにくい方のために苦情・要望受付箱を設置されている。また、利用者満足度調査を実施し、サービスの質の向上に活かせるよう検討されている。ホームでの利用者の暮らしぶりを家族に知っていただくために、毎月の請求明細書を送付する際には、行事などの写真入りのホーム新聞を同封するなどの取り組みが確認できた。	現在家族会の結成には至っていない。家族は、意見や要望、不満を言い出し難いことから、職員から積極的に意見を聞いたたり、職員が席をはずし家族同士で話し合える場を提供するなど、今後更に、何でも言ってもらえる場面作りに取り組まれることを望む。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会や各種委員会には出来るだけ施設長が参加し、職員の意見や要望を聞き施設運営に活用している。また必要であれば個人面談も行い、職員の率直な思いも聴いている。	年に1回の施設長の面談のほか、管理者による面談もある。管理者は、日常的な関わりの中でも職員の声に耳を傾け、運営に活かしている様子がうかがえた。	

外部評価結果(認知症対応高齢者グループホームかりん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月に1回、幹部会議を開き運営実績の報告や業績についてねぎらいの言葉を掛けている。また、本年度から人事考課も取り入れ評価している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体で実施している施設内研修や、複合施設勉強会を企画、立案し職員の教育に力を入れている。また、外部研修にも積極的に参加している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人での交流は現状行っているが、他施設で運営されている事業所との交流は少ない。代表者間での交流は度々有る為、今後は管理者を含めた職員交流を実施していきたい。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来る限り1対1で対応し、相手の思いや希望を聞き、更にコミュニケーションの構築に努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	来居された時の対応や接待時の対応には、特に注意し十分時間を取り、ご家族やご本人の意向に沿う様話を聞いている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の意向に沿う様他のサービス利用も希望された時は対応している。		

外部評価結果(認知症対応高齢者グループホームかりん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	得意なことなどを見出し、掃除・洗濯・物干し・調理など職員と共同して行っている。季節の行事については職員から投げかけ、風習などを聞いている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話などで日常の様子を伝えている。お盆、お正月などに外出外泊の機会を設けて頂ける様配慮している。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人のなじみの場所などは、外出時立ち寄りなど心がけている。友人等の面会時はゆっくりと過ごして頂ける様環境作りを行っている。	職員は、利用者がこれまで培ってきた人間関係を把握し、地元のご近所だった方が訪問されたり、手紙や年賀状、電話の支援をするなど、つながりを継続できるように努められている旨をうかがった。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者間の人間関係は把握できている。職員は集団でのレクレーションや入居者間のかけ橋として、仲介に入りコミュニケーション作りに心掛け、孤立しないように心がけている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設や医療機関に行かれた後も、ご家族からの問い合わせに対し相談を受けている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中からご本人の希望・意向をくみ取り、気持ちに沿えるよう努力している。	利用者の把握をきめ細かくできるように、担当制をとっている。職員は、家族から情報を得るとともに、利用者が言葉にしづらい思いは、日々の行動や表情から汲み取るよう、一人ひとりその時々意向や思いの把握に努めながら支援されていた。	

外部評価結果(認知症対応高齢者グループホームかりん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談の中からお本人の生活歴・趣味など今までのサービスの経過を聞き、全員が把握できるよう努めている。必要であれば入居後も、ご本人ご家族の話を聞いている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録は詳細に記入し、職員間で情報の共有が出来る様に心がけている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様に変化が有る時はカンファレンスを開き介護計画の見直しを行っている。こまめに来訪して下さるご家族とは話し合いが持てているが、遠方のご家族とは直接話し合いの場を持っていない。	カンファレンスを行い、担当者をはじめ職員全員で意見を出し合い、計画作成担当者が立案している。定期的または状況に応じて、モニタリングと評価を行ない見直しを行なうことで、現状に即した計画になるよう努められていた。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は時間に沿って詳細に記録し、職員間で共有出来ている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人ご家族の希望に応じて通院介助等を行っている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設周辺の図書館や文化センターにスタッフと共に出向き好きな本を読んだり、地域の催しものを見学に出向いている。		

外部評価結果(認知症対応高齢者グループホームかりん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	一人ひとりの希望するかかりつけ医に受診・往診出来る様に努めている。必要時には受診の付き添いも行っている。	利用者の希望されるかかりつけ医に受診できるように支援されている。看護職員の配置により、日頃の健康管理や医療面での相談が行なわれ、月に一度は往診が受けられるなどの健康管理が行なわれていた。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置している。介護職員は細かな変化や状態をその都度看護に伝え、指示を仰いでおり、必要時には受診・往診を受けられる様に支援している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	急な入院の際、出来る限り早い時点で入院先の医療相談室と病状や経過、今後の予後などについての情報を頂き、退院時は迅速に帰居される準備を行っている。その際ご家族も含め話をしている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期の在り方についてご家族の希望を確認し、ご本人やご家族の意向に沿えるよう現在のグループホームとして出来る限りの支援に心がけている。	医療連携体制が整っていないため、重度化した場合は医療機関や他施設への住み替えをお願いし、家族の理解を得ている。転居に至るまでは、最大限の支援をしていく旨をうかがった。	重度化や終末期の対応のあり方は、利用者と家族の不安のひとつである。利用者と家族のニーズを汲み取り、事業所で対応しうる最大限の支援方法をチームで話し合うことが望まれる。また看取りが行なわれない場合でも、ターミナルケアの研修や、他の事業所の取り組みを参考にするなど、体制を整えていかれることを望む。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入社時のオリエンテーションや施設内研修で急変や事故発生時に備え、研修を受け対応出来る様学習している。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	入社時のオリエンテーションや年2回の避難訓練と水防訓練を地域の方の協力を得て行っている。	年2回、夜間を想定しての避難訓練や、諏訪湖近くに設置されていることによる防水訓練が、地域住民の協力を得て行われている。避難の際は、複合施設内での応援体制により行なわれる旨をうかがった。	ホームは複合施設の3階にあり、利用者にとって非常階段から避難は困難が多いと思われる。また、入居者の高齢化に伴い身体機能の低下や重度化が予想され、職員だけの誘導には限界があると思われる。いざというときに近隣住民の協力を得られるよう、運営推進会議での呼びかけと協力体制の更なる構築を望む。

外部評価結果(認知症対応高齢者グループホームかりん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重しながら安心出来る声掛けや対応を心がけている。守秘義務について職員は日々意識して業務にあたっている。	プライバシーの保護と人格の尊重は、対人援助の基本原則であり、研修や勉強会を通して職員は認識してケアをされている。職員と利用者のやりとりから、職員の利用者に対する敬意や人格を尊重する姿勢が感じられた。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の気持ちに沿いながら、入浴や衣類洗濯や外出場所などが事故決定出来る様に支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	有る程度の日課は決まっているが、食事・入浴・余暇時間などご本人の希望に添える様支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗面・整髪が行える様居室に洗面台・鏡がとりつけてある。整容セットを準備し、いつでも行えるようにしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下ごしらえや盛付・片づけ等入居者様と一緒にやっている。少しでも好みのものを提供できるよう、委員会を通し委託業者へ伝えている。	献立は、複合施設全体で決められているが、利用者の希望が取り入れられるような仕組みもある。ホームのフロアが見渡せる台所で、利用者と一緒に調理、盛り付け、片付けなどの作業が生き生きと行なわれていた。職員は利用者と同じテーブルを囲み、食欲も会話も進み楽しい食事風景であった。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは施設の管理栄養士が作成しており、バランスの考えられた食事の提供が出来る。		

外部評価結果(認知症対応高齢者グループホームかりん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		<p>口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>職員の意識づけの為にチェック表を使用し、毎食後行っているか口腔内を確認するようにしている。出来る所は自力にて行って頂いている。</p>		
43	(16)	<p>排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>排泄チェック表を付け、個々の排泄パターンの把握に役立っている。排泄パターンを元に自尊心を傷つけない様、さりげない誘導を心がけている。</p>	<p>職員はトイレでの排泄やオムツをしないで済む暮らしの大切さを理解し、排泄パターンにそったトイレ誘導や声掛けをされていた。パット等を交換する際は、本人の羞恥心に配慮しながら支援されている様子をうかがった。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>ご本人の排便パターンをつかみ、必要な方には医師に相談し下剤の提供をしている。その他、食事に気を付けたり、適度な運動を心掛けている。</p>		
45	(17)	<p>入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている</p>	<p>ご本人の希望を聞きながら入浴日や時間帯を決めて援助を行っている。</p>	<p>利用者の希望を大切に、いつでも入浴できる体制をとっている。リフトも使える個室は、肩まで浸かれる浴槽であり、職員とゆっくり会話をしながらの入浴を楽しまれている。入浴を嫌がる利用者は介護計画に挙げ、声掛けなど誘導を工夫しながら支援されている旨をうかがった。</p>	
46		<p>安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>午睡などご本人の生活習慣や希望に合わせて対応している。好みの時間に入眠出来る様支援したり、安心出来る声掛けを行うなど工夫している。</p>		
47		<p>服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>一人ひとりの薬については内服薬のファイルやお薬手帳を作成しており、いつでも確認できる状態にしてある。薬の変更時には注意点・観察点など看護職より説明してもらい、症状に変化が有った時等は看護に報告するようにしている。</p>		

外部評価結果(認知症対応高齢者グループホームかりん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活ペースに合わせて入居者様の得意なことや趣味を活かせるような余暇時間が過ごして頂けるよう工夫をしている。また、季節を感じて頂ける様に行事を企画し実施している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩の機会を持つよう心掛けている。また、出来るだけ入居者様の希望を取り入れ、月1回外出や外食の機会が作れる様努めている。	天気の良い日には、利用者の希望とペースにあわせてホーム周辺や諏訪湖、高島城などへ散歩できるよう努められている。家族の協力も得ながらイチゴ狩りや花見などの行事やミニドライブが行なわれ、利用者の楽しみにつながっていた。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少しの金額を入居者様の希望により自己管理をしている方もいる。普段は事業所で管理している方も、買い物の際自分で支払いが行える様支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には電話がかけられる様支援している。年賀状などはご本人の希望を聞いて書ける様援助している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度調節・遮光など心地よい環境が作れる様配慮している。季節感を味わって頂ける様にユニット内に装飾品などを飾り、見て楽しんで頂ける様工夫をしている。	複合施設の3階に設置されているため、採光や眺めは良く、四季の移ろいを感じることができる。ホールの壁には、利用者が作成された季節感ある貼り絵や塗り絵などの作品が飾られ、観葉植物が置かれていた。ゆったりと思いいにくつろいだり、塗り絵に熱中されている利用者の様子がうかがえた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースで一人で過ごせる場所は少ないが、居室でゆっくりと過ごして頂ける様支援している。また、気の合った入居者様同士が思い思いに過ごし、くつろいで頂ける様お茶・コーヒーなども提供している。		

外部評価結果(認知症対応高齢者グループホームかりん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は入居者様の使い慣れた物を持って来て頂き、ご本人が居心地良く過ごして頂ける様な配慮に心掛けている。	ホーム備え付けのベッド、タンス、テーブルが設置された居室には、利用者が自宅で使用されていた時計、写真、装飾品などが置かれ、その人らしく生活できるように支援されていた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの入居者様が安全に自立した生活ができる様環境整備を行っている。また、表札などを作り場所の確認が出来る様工夫している。		